

車いす使用者の 学校生活について考える



障害のある人

1 教科等

中学校第1学年 総合的な学習の時間

2 単元名

車いす使用者（障害のある人）についての理解

3 単元設定の理由

○ 題材について

本題材では、車いす体験とDVD視聴を通して、車いす使用者についての理解を深め、障害のある人もない人も同じ空間（学校）で生活するために、自分が何を大切にしたいかを考えさせる。また、互いの考えを共有することにより、共感的に考えられる態度を育成したい。

4 単元の目標

- 人権と、障害のある人についての理解を深める。〔知識・理解〕
- 車いす体験を通して、学校生活の中でどのような課題や困難が生じるのかを考え、障害のある人にとって過ごしやすい社会の実現に向かって活動しようとする意欲や態度を育成する。

〔思考・判断・実践〕

5 単元の評価規準

主体的に取り組む態度	コミュニケーション能力の育成
体験活動や話し合い活動に意欲的に取り組むことができ、自らの考えや意見を持つことができる。	自分の考えを自分の表現で発表することができる。他者の考えや発表を真剣に聞いたり、共感したりすることができる。

6 指導計画

	生徒の活動	評価規準
第一時	子どもの権利条約について話し合う。	子どもの権利条約等の人権について理解ができている。〔知識・理解〕
第二時	車いす体験をする。	車いすの使用やその環境について考えている。〔思考・判断・実践〕
第三時 (本時)	車いす使用者がいる学校生活でどのような行動がとれるか話し合う。	学校生活の中でどのような行動がとれるか考えることができる。 〔関心・意欲・態度〕

7 本時と人権教育

- 障害や障害のある人について正しく理解する。（知識的側面）
- 車いす体験の振り返りとDVD視聴を通して、障害のある人もない人も互いに尊重し、支え合いながら生活できる共生社会の実現に向かって活動しようとする意欲や態度を育成する。（価値的・態度的側面）

8 本時の目標

- 車いす体験の振り返りとDVD視聴から、車いす使用者に対する自分の考えや気づきをまとめて発表することができる。

展 開

人権教育の視点から特に重要なこと…★

学習活動

<導入>

- 1 前時の体験を振り返り、本時のめあてをつかむ。

2 <展開>

車いす体験で学んだことを共有する。

- 3 DVD「障がいを超えて」（東映）※の CHAPTER 2「彼女はなぜ踊るのか」（10分）を視聴し、感想を共有する。※岡山県生涯学習センターで借用可

- 4 自分が大切にしたいことをまとめる。

- (1)個人でワークシート（資料2）に記入する。
- (2)班でホワイトボードや模造紙等にまとめる。
- (3)班の意見を発表する。

<終末>

- 5 本時の振り返りをする。

教師の指導・支援

- 車いす体験をしている写真や動画を見せて、前時の活動を想起させる。
- 体験活動の振り返りとDVD視聴を通して、まとめをすることを伝える。

- 車いす体験後に書かせた感想を伝え合わせ、様々な視点からの気づきがあったことを確認する。

- ・ 車いす使用者／周りの人
- ・ 車いすの使い方／学校の物的環境
- ・ 気持ち／コミュニケーション など

- ★ 車いす使用者(当事者)の考えや思いに触れさせることにより、新たな気づきを持たせる。

- ・ 障害のある人一人一人が違って、個性があること
- ・ 障害の有無にかかわらず、自己実現を迫る女性の生き方
- ・ 周囲の人の関わり方や考え方 など

- 車いす使用者の気持ちを想像しながら自分の言葉で書かせる。

- ・ 車いすの使用者がいるとき“自分が大切にしたいこと”をあげさせる。（2つまで）
- ・ 班の中で、理由や具体的な場面などを説明しながら一人一人発表させる。
- ・ 班ごとに発表させたり、まとめを掲示したりして、互いのまとめを共有する。

- 単元全体を通して学んだことを振り返らせる。

学習評価

- 学校生活の中でどのような行動がとれるかを考えることができる。

〔関心・意欲・態度〕
（ワークシートの記述）

- 振り返りの中で実践しようとしている。

〔思考・判断・実践〕
（ワークシートの記述）

「車いす使用者の学校生活について考えよう」ワークシート

() 年 () 組 () 番 氏名 ()

めあて：車いす使用者がいる学校生活でどのような行動がとれるか考えよう

① 「彼女はなぜ踊るのか」を見て感じたこと

--

② 車いす使用者がいる学校で“自分が大切にしたい”こと

自分が大切にしたいこと	理 由

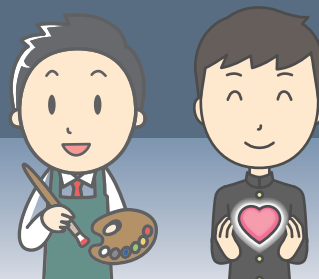
【メモ】

班 員	大切にしたいこと	理 由

【班でのまとめ】 班

--

共生社会実現のために 自分たちにできること



障害のある人

1 教科等

中学校第3学年 総合的な学習の時間

2 単元名

共生社会の実現に向けて

3 単元設定の理由

○ 題材について

本題材では、自閉症の方との交流を通して、障害のある人についての理解を深めるとともに、多様性を尊重することや他者理解の大切さについて考えさせたい。また、誰もが生きやすい共生社会の実現に向けて、自覚と責任を持ち、主体的に関与しようとする意欲や態度を育成したい。

4 単元の目標

- 人権についての理解と、人権に関する正しい知識を深める。〔知識・理解〕
- 自閉症の方との交流を通して、誰もが生きやすい共生社会の実現に向けて、自覚と責任をもち、主体的に関与しようとする意欲や態度を育成する。〔思考・判断・実践〕

5 単元の評価規準

主体的に取り組む態度	コミュニケーション能力の育成
障害のある人との交流や話し合い活動に意欲的に取り組み、自らの考えや意見を持つことができる。	自分の考えを自分の表現で発表することができる。他者の考えや発表を真剣に聞いたり、共感したりすることができる。

6 指導計画

	主な学習活動	評価規準
第一時	○ 世界人権宣言をもとに、すべての人の人権が尊重される社会について話し合う。 ○ 共生社会の在り方について知る。	世界人権宣言や共生社会について理解できている。〔知識・理解〕
第二時	○ 障害のある人に関するDVDを視聴し、相手の状況や場面、心情に応じた配慮や支援を考える。 ○ 障害のある人が社会とのつながりを持つために、自分たちにできることを考える。	障害のある人が社会とのつながりを持つために、自分たちにできることを考えている。〔思考・判断・実践〕
第三時	○ 知的障害や発達障害について、正しく理解する。 ○ 目に見えない障害についての知識理解を踏まえて、前時の課題について再度考える。	目に見えない障害のある人の生きづらさや障害の特性について正しく理解している。〔知識・理解〕
第四時	○ 障害のある人が周囲の支援を受けて、特性や才能を活かし、活躍していることを知る。	障害のある人との交流に意欲的に取り組むことができる。〔関心・意欲・態度〕
第五時 (本時)	○ 交流で感じたことをグループで共有し、自分の考えをさらに深める。 ○ 交流から得た自分の考えをもとに、共生社会の実現について考える。 ○ 共生社会の実現に向けて、自分ができることについて考える。	自分の考えを自分の言葉で発表できる。 他者の考えを真剣に聞いている。 〔関心・意欲・態度〕 共生社会の実現に向けて考えるとともに、自分ができることを考えている。 〔思考・判断・実践〕

7 本時と人権教育

- 自分たちの社会をより良いものにするため、主体的に関わろうとする態度を身に付ける。

〔価値的・態度的側面〕

- 自分の考えとは異なる意見に対しても能動的に傾聴することができる。〔技能的側面〕

8 本時の目標

- 障害のある人との交流から得た自分の考えをもとに、共生社会の実現に向けて、自分のできることや大切にしたいことについて考えることができる。

人権教育の視点から特に重要なこと…★

展 開

学習活動

<導入>

- 1 前時の交流を振り返り、本時のめあてをつかむ。

<展開>

- 2 交流の感想を共有する。
- 3 共生社会の実現に向けて、自分のできることや大切にしたいことを個人で考える。

- 4 共生社会を実現するためにどのようなことができるか班で話し合う。

- 5 全体に向けて発表する。

<終末>

- 6 自分のできることや大切にしたいことについてまとめ、学習全体を振り返る。

教師の指導・支援

- 交流の写真を提示して、前時の学習を振り返り、本時の流れ（資料3）を説明する。
- 本時は、今までの学習で考えたことと、交流から感じたことを踏まえて、共生社会実現のために自分たちにできることを考えるということを知らせる。

- 交流後に書いた感想を班で伝え合い、感じたことや考えたことを共有する。
 - ・ 交流前後の気持ちの変化
 - ・ コミュニケーションの取り方 など
- ★ 学習内容を振り返らせ、「共生社会」について確認する。
- 話し合いの約束と流れについて生徒に伝える。（ブレンストーミング）
- 付箋には短い言葉で記入するように伝え、できるだけたくさんの意見を出すように指示する。

- ★ 具体的な場面や行動、理由などの説明を付け加え、付箋を模造紙等に貼りながら意見を発表させる。
- 同じような意見はまとめて、タイトルをつけたり、矢印等で関係を示したりしてまとめるように指示する。（ウォールライティング）
- 班でまとめた意見を発表して全体で共有する。

- ★ 自分のできることや大切にしたいこと(行動、態度)のまとめをワークシートに記入させる。
- 今までのワークシートを確認させ、学習全体を振り返らせる。

学習評価

- 他者の発表を真剣に聞いている。
〔関心・意欲・態度〕
（行動の観察）

- ★ 共生社会の実現に向けて、自分ができることを考えている。
〔思考・判断・実践〕（ワークシートの記述・行動の観察）

「交流体験をもとに共生社会の実現に向けてできることを考えよう」

() 年 () 組 () 番 氏名 ()

1. 障害のある人との交流の感想を話し合おう

2. 「共生社会」を実現するために どのようなことができるか考えよう

テーマ

「共生社会」を実現するために、自分ができることや大切にしたいことは何ですか？

① テーマについて個人で考えて、付せんに書く。

→ 1つの付せんに1つの意見を短い言葉で記入する。できるだけたくさんの意見を出す。

② 班の中で、個人の考えを発表する。

→ 付せんに貼って、具体的な場面や行動、理由などの説明を付け加えて意見を発表する。

→ 司会を中心に、同じ意見や似た意見を尋ねながら、付せんに近くに貼ってまとめる。

③ 全員の意見をまとめる。

→ 分類したものにタイトルをつけたり、囲みや矢印等で関係を示したりして班の意見をまとめる。

話し合いの約束

・相手の意見を批判しない

・どんどん意見を出す

・いろいろな場面を考える

3. 学習のまとめ

○「共生社会」を実現するために、自分はどのようなことをしますか。

○今までの人権学習全体を通して考えたこと、学んだことを書きましょう。